



名古屋市千種区のアピタ千代田橋店で行われた廃食用油の回収促進キャンペーン＝4月29日、筆者撮影

## 石油危機の時代に追い風か 名古屋市が廃食用油リサイクルてこ入れ

名古屋市は家庭で使い終わった食用油（廃食用油）を回収し、その一部を SAF（サフ、持続可能な航空燃料）にリサイクルする取り組みを今年度から始めた。これまでも軽油の代替として市バスやごみ収集車の燃料に使ってきたが、より活用の幅を広げながら、頭打ちとなっている回収量の増加にもつなげる。中東危機で石油供給の不安が広がる中、注目度も再び浮上しそうだ。

### ◆ 脱炭素進める航空業界にとって“宝の山”が家庭に ◆

4月29日、名古屋市千種区のアピタ千代田橋店の入り口前に「使用済み油で…空を飛ぶ!？」と書かれたのぼりが立てられた。文字の下にある合成写真はエビフライが飛行機の機体、ナイフとフォークが翼に見える。SAFは食用油などのバイオマス由来の石油代替燃料で、航空業界の脱炭素化の切り札とされている。

のぼりの前で行われた名古屋市の廃食用油回収促進キャンペーンでは、市環境局の鬼頭秀一局長が「家庭から排出され

た食用油からつくられた SAF が、愛知県内の空港であるセントレア（中部国際空港）で使用されるという循環の輪が実現した」と挨拶。同空港の坂田一光・サステナビリティ推進担当執行役員は、「空港から排出される温室効果ガスの約9割が航空機から排出されている。それを SAF に切り替えていくのは私ども空港としてとても大事なこと」とした上で、「全国的にみると家庭から出る油のほぼ9割が燃えるごみとして捨てられていると聞いて